

特権階級

中嶋 嶺雄

# 社会主義の解体へつながる

## 目に余る不正・腐敗

一九八九年四月中旬からの中国の民主化運動は、同年六月四日の「血の日曜日」事件によって徹底的に鎮圧されたが、運動に立ち上がった学生や市民は、改革と開放の政策のなかで出てきた特権階級としての「官倒」を強く批判した。



鄧小平の長男、鄧樸方が理事長を務めていた総合商社は輸出入業務の中止命令が出された AFP

「官倒」とは「官僚ブローカー」と訳すことができるが、政府や党の幹部が新興の企業集団や会社と癒着して物資を横流ししたり、不当な利益を得る「官倒」現象が、今日の中国では横行している。語源的には「倒」は物資を横流ししたり、転売したりするという意味の北京方言（俗語）で、「倒爺」つまり「ころがしや」から来ている。「官」はもちろん「役人」「官僚」のことであるから「官倒」というよりは「官倒爺」という方がより正確である。うが、このような特権階級の不正や腐敗の目に余る状況を、学生や知識人たちは糾弾したのであった。

こうした「官倒」現象に加えて、共産党の高級幹部子弟の特権化もあまりにもひどいのが現実である。この問題は「太子党」つまり高級幹部の二世集団の横暴だと言えよう。

## 中国トップの子弟にも特権

北京大学に貼り出された「試みに見よ、今日の国家は、結局だれの家の天下なのか？」

と題する「中国名人録」を綴った壁新聞のコピーが私の手許にあるが、それらによって具体的な例をあげてみると、その実態は極めてひどいものと言わざるを得ない。中国では一般に、高級幹部の子弟をアメリカなどに優先的に留学させたり、政府や企業の高い地位に就かせているといわれてきたが、その具体的な事例を知られば知るほど、目に余るものがある。

まず、鄧小平であるが、長男である鄧樸方は文化大革命のときの犠牲で身体障害者となり、その車椅子姿がよく知られている。彼は中国身体障害者福利基金の理事長であり、そして康華発展総公司理事長という、まさに官僚ブローカーそのものであるような特権的なコングロマリット、総合商社の理事長に就任していたのである。鄧樸方の行状があまりにも目立ちすぎるために、この國務院直属の新興企業集団である康華発展総公司是、昨八八年十月中旬に党中央と國務院の決定によって輸出入業務の差し止めが命令された。それは、

こうした会社の「官倒」現象があまりにもひどかったこと、特に物資の横流しなどで特権を行使することに対する批判が生じたために、そうせざるを得なかったのである。

しかも、鄧樸方は身体障害者福利基金などを利用して巨額の私利を蓄え、アメリカに十億米ドル以上の不正蓄財をしているとか、あるいは東海艦隊の軍艦を払い下げてもらって転売し、スイスの銀行に四十一億スイスフランの貯金をしているとかの噂が流されているほどである。

鄧小平の長女である鄧楠は、現在、國務院の国家科学技術委員会局長であり、鄧小平のもう一人の娘の鄧榕は医者であるが、全国人民代表大会常務委員会外事委員会の国際関係研究室主任、そして娘婿である趙宝江は、現在、武漢市長である。もう一人の娘婿である吳建常は國務院冶金工業部直属の中国有色金屬総公司副総経理である。現在、政治局員でもある李鉄映は、中国共産党首脳であった李維漢と鄧小平の前夫人との間の子供だともいわれる。

一方、こうした幹部の特権に関しては、趙紫陽も変わりはないわけで、趙紫陽の長男の趙大軍は現在、開発が注目されている海南島の海南華海会社の副総裁であり、娘の趙亮は、北京の一流ホテルとして知られる長城飯店の

副総経理であった。

そして、次に李鵬であるが、李鵬首相自身、さして有能ではないのに周恩来の養子だということで権力の座に就いたことがしばしばさやかれてきた。その李鵬の息子の李陽は南海開発発展会社の副総裁、さらに李鵬夫人の朱琳は中国南方会社の社長といわれている。楊尚昆に至っては、今回の一種の予防軍事クーデターにおいて、その事実が知られたように、実弟の楊白冰が人民解放軍総政治部主任、娘婿の遲浩田が人民解放軍総参謀長という要職に就いており、武力鎮圧の先兵となった第二十七軍の軍長・楊小軍が楊白冰の息子といわれるなど、まさに今回の一連の事態は、楊尚昆の私兵による軍事力の行使であったと見なさざるを得ない状況である。

### 党幹部に一族支配も

こうした傾向は、今回の「血の日曜日」事件の主要登場人物である鄧小平、趙紫陽、李鵬、楊尚昆のみならず、中国共産党の幹部にあまねく共通しているといっても過言ではない。人民解放軍の重鎮として慕われた亡き葉劍英元全国人民代表大会常務委員長でさえも、長男の葉選平が広東省長、娘の葉楚梅が国防科学技術工業委員会元副主任、娘婿の鄧家華が國務委員兼党中央委員であるのみなら

ず、國務院の機械電子工業部長という要職にあり、さらには鄧家華の弟の鄧章蒙が国家氣象局長、嫁（葉選平夫人）の吳小蘭が深圳市副市长等々の職務に就いているのである。

さらに、例えば内蒙古自治区の独裁者といわれ、先頃亡くなったウランフ国家副主席の息子の布赫は内蒙古自治区主席、婿の烏杰が呼和浩特に次ぐ重要都市である包頭市長と、まさにウランフ王朝が内蒙古では依然として続いているのである。

これはほんの一部の例であるが、すべての中国共産党幹部は、このような特権と一族支配のもとにあり、こうした縁戚関係によるネポティズム（閥族主義）の実態を知れば知るほど、驚くべきものである。こうした状況に對して、学生たちはその正義感から痛烈な批判を展開していたのであるが、それは同時に、中国共産党に対する激しい不信感となつてあらわれたことは言うまでもない。

このように社会主義国家において、特権階層の生成と肥大化がつづくかぎり、社会主義に未来がないばかりか、やがては社会主義の解体へとつながってゆかざるを得ないであろう。

（なかじま・みねお 東京外国語大学教授）

（編集部注）政治局全体会議は7月28日、康華発展総公司等政府系総合商社二社の廃止を決定）